



①『私たちが帰る場所』レコーディングに向け、鹿屋中央高校でミーティング
②「平成26年高隈ふれあい夏祭り」にて、高隈の皆さんと一緒にハンヤ踊り
③『私たちが帰る場所』歌詞

友人との縁でライブをさせてもらったことをきっかけに、鹿屋の人たちと出会い「都会から発信する音楽ではなく、地域から発信する音楽交流」ができるかもしれないと感じ

地域から発信する音楽交流を実現したい

国民文化祭公演当日、お客様にそんな「音楽のチカラ」を感じていただきたいと語る「高鈴」にお話を伺いました。

また、この活動を通して、「音楽は、人に、町に、もっと何かができるんじゃないか。口ずさむだけで故郷へ帰れる歌があるなら、どれだけ力をもたらえるだろう」と強い想いを抱くようになったそうです。

平成24年度から続くアコースティックユニット「高鈴」と、市民の皆さんとの音楽による交流は現在、国民文化祭事業「音楽のチカラ」となり進行しています。これまで2年半にわたり、市内の保育園・小学校・中学校・高校・施設を訪問しての20本以上のライブやワークショップを実施。また、鹿屋を舞台とした合唱曲『私たちが帰る場所』の制作や、高隈中学校と鹿屋中央高校の生徒とのレコーディング活動を行いました。

また、鹿屋の皆さんと様々な交流を重ねるうちに、鹿屋という土地で生活している皆さんに歌っていただけならと思制作した『私たちが帰る場所』。この歌は、鹿屋市内や高隈地区などの風景を思い、そしていつか大人になる子どもたちの事を考

「音楽のチカラ」プロジェクトを通して、これまでに数曲の歌を制作してきました。

障害者就労継続支援施設である「Lanka」の利用者から、自分たちがもっとも大事にしている「言葉」を書いていただき、それをモチーフに歌詞を考えた『星座をむすぶ糸』。

プロジェクトを始めて2年半。学校や施設など、数多くの訪問ライブをさせていただき、いろいろな出会いが生まれました。子どもたちへは、風のようにさわやかな印象を受けるとともに、いつか自分たちは町をでるかもしれないと既に子どもながらに分かっているようにも感じました。だからかもしれないですが、自分の生まれた町をこの町の人を景色を、尚更愛おしく思っているんだなあと、とても純粋な気持ちを持つ子どもたちだと感じました。



鹿屋養護学校での訪問ライブで生徒さんとの共演も実現



どれだけ力をもたらえられるだろう

口ずさむだけで故郷へ帰れる歌があるなら、

音

音楽のチカラを楽しむ



プロフィール

高鈴(コウリン) *callin'*
ボーカル/山本 高穂 ギター/山口 響久
圧倒的な歌声と言葉、独自の世界観を表現するギターは、国内のポップスシーンでは聞いたことのない輝きとも評され、世代を超えたファンに根強く支持されている。代表作はアニメ夏目友人帳エンディングテーマ「愛してる」他。

音楽のチカラ 公式Facebookページにて随時情報発信中。
詳しくはこちら [音楽のチカラ 鹿屋 Facebook](#)

